

対象者様への情報公開文書

「全国ウツタイン統計と札幌市ウツタイン統計の比較による心肺停止者の生命予後の差異に影響を与える要因の検討」

はじめに

札幌市の救急出動件数は年々増加し続け、現在では9万件を越す出動件数となっています。その中で、札幌市の救命率は全国平均と比較すると高い状況にあります。しかし、ここ数年の救命率を見ると、横ばいの状況が続いております。今後の高齢化社会、また、救急出動件数の増加が見込まれる中、救命率の向上が求められます。

今回、私たちは、総務省消防庁が収集している平成18年1月1日～平成27年12月31日までの院外で心停止となった患者様のデータをまとめたウツタイン統計データを分析することにより、札幌市と全国の救命率の違いにつながる要因について明らかにするための研究を行います。

今回の結果は、札幌市だけではなく全国の救命率向上に役立てられるのではないかと期待しています。

この研究は、札幌医科大学倫理委員会の審査を受けた上で札幌医科大学学長の承認を得て行われております。

対象となる方

平成18年4月1日～平成27年12月31日に院外で心停止となった患者様

研究内容

札幌市及び総務省消防庁から、当講座に提供いただいたウツタイン統計データをもとに、統計学的ソフトを用い、救命率につながる要因について分析します。

この研究の対象者様への費用負担はありません。本研究は外部資金を使用しませんし、利益相反もありません。

<解析に用いるデータ>

救急出動年月日及び日時、性別、年齢、応急手当の有無、傷病者接触時の心電図波形、心停止の目撃の有無、除細動の有無と実施時間、器具気道確保の有無、静脈路確保の有無、薬剤投与の有無と投与時間、覚知時間、現場到着時間、病院到着時間、心停止の原因、傷病者予後のすべての調査項目です。

対象者様の個人情報の管理について

本研究で使用するウツタイン統計データは個人情報が削除されているものです。個人情報が含まれない形でデータの提供を受けるため、札幌医科大学では個人情報を管理しておりません。本研究実施過程及びその結果の公表（学会発表や論文など）の際に、対象者様を特定できる情報は一切含まれません。

対象者様がこの研究にデータを提供したくない場合の処置について

札幌医科大学では個人情報を取り扱っておらず、どのデータが申し出て頂いた対象者の方のデータか判断できないことから、個別にデータを取り除く対応は難しいことを御理解頂けますようお願い致します。

対象者様からの相談等への対応

対象者様からの求めに応じて、個人情報の保護及び当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、対象者様は研究計画書、資料を入手及び閲覧ができます。これらについて相談等される場合には下記に御連絡ください。

研究期間

札幌医科大学学長の承認日から2021年3月31日

研究結果の公表

学会及び論文等で公表し、この結果は札幌市に提供します。

データの保管及び廃棄方法

データは、USBメモリに保存し、札幌医科大学医学部公衆衛生学講座の鍵のかかるロッカーに保管し、研究終了後、5年間保存します。

医学上の貢献

今後も救急出動件数や心肺停止症例の増加が見込まれる中、さらなる救命率の向上につながる事が期待されます。

問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学医学部公衆衛生学講座

研究責任者 大西浩文

平日 TEL 011-611-2111 内線 27400

日曜日・祝日・夜間 TEL 011-611-2111 内線 27400

または

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学医学部公衆衛生学講座

研究分担者 原正浩

平日 TEL 011-611-2111 内線 27400